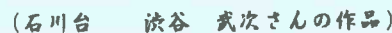


平成15年  
あさがお号



⑭ 夜の校舎は…

取りに行くことでエネルギーを使い果たした私の宿題は、粗末な出来で、評価もそれなりのものだった。「肝心なことが抜けている」というのは、残念ながら、40年以上たった今も、昔と少しも変わっていない。

(東雪 直井 恵子)

茶の湯  
(裏千家)

千利休の道歌の一つに、  
「茶の湯とはたゞ湯をわかし

のむばかりなる事と知るべし」とありますが、床の間に軸を掛け四季折々にの茶花を生け、五月ゝ十月は風炉ふうろ、十一月ゝ四月は炉となりまゝす。そして炭手前、香をたき皆で道



具の取り合せを考え準備をしてお  
菓子<sup>こし</sup>をいただき濃茶<sup>こicha</sup>・薄茶<sup>うすicha</sup>と一碗<sup>わんぱん</sup>  
のお点前を楽しんでいます。  
また研究会、お茶会にも出席す  
るように心がけています。

お知らせ

雪谷地区自治会連合会長  
が替わりました。

（新）直井 禧久男さん

(旧)堀越 昇さん

## 私の健康法⑫

# 我天与の健康法

明年早々に九十歳になる。我  
 事とは思われない。この辺まで  
 はと願ったり、祈ったりしたこ  
 とはなく自然なのだった。ろく  
 な苦勞もしなかつた癖にと幼友  
 達というが反論は無い。

顧みれば我人生行路は精神的  
身体的に過酷過重ではなくむし  
ろ輕負擔であつた。この生活環  
境の上に私の安樂志向の性格が  
スナナリ対応して樂な人生が斯  
く長持ちさせたと思える。

七十歳から八十歳の約十年間に十五回入院した。敗血症・狭心症・胃の手術・前立腺切開と肺炎であったが全部クリヤーし

「編集後記」

文月に入り軒の風に揺らぐ盆提灯の季節である。今回は、そんな時代がこの地にもと  
うらばんえ  
思い孟蘭盆会の記事なども載せました。  
根方（仲池上）の二百年前からの風習、現  
在の学童の夏休みへの過ごし方など参考にな  
ると思います。

平成も十五年がたち、奇病のまん延、地震の発生等毎日が激しく動いています。一時代前のゆとりと安らぎを持ちたいものです。

(南雪谷 飯田 七造)

〔発行〕わがまち大田雪谷地区推進委員会  
〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会  
（編集者）雪谷特別出張所

連絡先 雪谷特別出張所

電話 三七一九一五一一七

平成十五年七月一日

通卷第五十一号

四月一日付けで雪谷特別出張所の所長が替わりました。

(新) 町田 達彦 (旧) 吉田 博  
よろしくお願いします。

て運の良い奴だと  
密かに思う。

不健康時代をクリヤーして以後の  
ここ十年間は一病  
息災の自戒で養生



法らしきこととして毎年十一月下旬から翌年四月半ばまで毎日ホカロン一袋を背中に。外出した折りは必ず手洗いやうがい。医者になつた娘を待医のようにコキ使うここの十年間に二回風邪をひいたが真夜中に往診を頼み、翌朝はケロリ快癒であつた。

健康の行先については楽観的である。

(小池 森井 好一)



## 蛍の送り火で「おひょう様」を送った

うらぼんえ  
盂蘭盆会の思い出

昭和13年代初め、私が池雪小学校4・5年生で家

族たちと親戚の者と門前で麦藁をパチパチと「送り火」をたいて、灯ろうを持ち、猿坂の墓地に「おひょう様」精霊を送りに自宅から北へ百メートル位歩いていたら、突然蛍が1匹、ほのかな光を点滅させて飛んでいた。これには一同の者たちが驚いてしまった。

自宅は高台で、近くには田んぼも小川の流れも無い所。これは、「テッキリお盆の仏様のお使いだったのだらう」と昔を偲んでいる。

うらぼんえ ぼんご  
盂蘭盆会。梵語『ullambana』倒懸と訳され、逆さまつりの苦しみの意とされる。(広辞苑)陰暦7月・8月が異なるとある。「新編武蔵国風土記稿」には「林昌寺境内墓所の側に坂あり、猿坂と呼、昔山林茂りて猿多く在りし故この名ありとす」その猿坂墓所に綱嶋家の墓地がある。

その頃、お盆が近づくと各家の墓地の前には、青竹で造った「お棚」が作られた。

我が家の仏壇の前にも3段の棚を作り、お供物やナスとキュウリで作った牛馬・果物、野菜はお盆に乗せ、また皿に盛った料理が並べられた。

お棚の両側には青竹を1本ずつ立てその竹をチガヤを刈って来て縄をない結んで、カキ・クリ・ブドウ・ヒエ・ホオズキ等をつるした。その棚の中央付近には杉の葉と青竹で作ったませ垣を悪魔払いとしたと考えられる。

母は13・14・15日はわらじ団子、冷や麦、野菜の煮付など毎日の献立を仏前に並べていた。13日には僧がお棚経をあげた。

7月に入ると毎晩お盆提灯に火をつけて軒先につるしたものだ。13日には四角の灯ろうとお花と水を持って墓地に行き、線香をあげ灯ろうに火をつけて門口まで帰ってきて麦藁を燃やし仏前で読経し、灯ろうは火をつけたまま仏前に置いてあった。

いよいよ15日の夕方には親戚が集って来て、おひょう様「精霊」のお送りとなる。

現在はだいたいの家が陽が高いうちに「送り火」をたいてお送りしてしまうが、当時はなるべくおそく暗くなるまで送り火はたかなかった様だ。それで前述の様な蛍の出現となったのである。灯ろうは墓地の棚に火をつけたまま置いて帰ってきた。

現在は下水道完備のため、蛍の出現等想像も出来ないが、砂利道や湧き水等のない現代社会も何か物足りない事と考えられる。

池上地区にも昔は「鴻の巣湧水」や家々に清水が湧き出していた。最近やっと東京都や大田区でも湧水の必要性を認め、浸透マスや浸透性舗装を駐車場や私道に推めている。一度雨水を下水道に流してしまうとなかなか、元の生態系には戻らない、困った現象である。

何とか考えなければならぬ大事な事柄ではなかろうか？

(上池上 綱嶋 滋)

## 夏休みの過ごし方

夏休みといえば、子どもたちにとっては待ち遠しいものですね。

ちなみに私は静岡県出身で、小学校のころは夏休み中、朝から日が暮れるまで山や川、学校の校庭で遊んでいた記憶があります。

小学校の高学年になると、お友達と自転車で遊びに行くことが多くなりますが、この周辺は坂道が多いほか、環状七号線をはじめ、中原街道、荏原病院通り、学研通りそして、十中通りと車の通行量が多い地域でもあります。

こんな環境下にありながら、とかくお友だちといえる時によく見かけるのが、自転車の二列、三列走行です。話に夢中になり、時に交差点もそのまま通過してしまう。気をつけなくてはいいけません。

また、今は、コンピューターゲームがどこでも出来る時代になって、子どもたちの会話を聞いていると、「相手をやっつける」「やられた」等過激な会話に加えて、相手をたたけば「痛い」という感覚もないことから、喧嘩をしても度を越して手を出してしまうなど、現実とゲームの判断がつかないような事件も散見されます。

この夏休みという機会に、できるだけ自然とのふれあいを多くして、その中で「ルールの大切さ」を感じさせる生活に配慮されてはいかがでしょうか。

(上池上 中谷駐在所 青島 義博)

## 美しい環境づくり⑧

### 地球が危ない 日本も危ない

私たちは戦後の高度経済成長とともに、快適な衣食住環境を手に入れてきた。その反動として森林伐採や自動車排気ガスによるCO<sub>2</sub>増加、またクーラー・冷蔵庫フロンによるオゾン層破壊という環境破壊に手を貸してしまった。また公害問題は環境だけでなく健康にも害が及んだ。

私たちは今ほしい物はお金を出せば何でも手に入り、それらを使い捨てにするという悪い文化に染まっている。私たちの身の回りでも、ゴミの焼却量を減らすため、いかに分別、リサイクルをするか、CO<sub>2</sub>排出を減らす方法を個人個人がしっかり考え、実行する時期に来ているのではないかと。そうしないと本当に地球が危ない。

もう一つ緊急を要しているのは社会環境の悪化ではないだろうか。近頃マナーやモラルという言葉は死語になっているように思える。そのためルールをも守れない人たちがあふれている。またその人たちを注意することもできず、『自分さえよければよい』という精神的な貧困さから起こっているのではないだろうか。

現在、日本では学校から社会にいたるまで過剰の競争を強いられ、すさんだ空気の中で生きていかなければならない。このままで本当に日本は生き残れるのだろうか。

(希望ヶ丘 小松 克一郎)

## 自治会リレー随筆

### ふしぎなおもいで

わたしは4か月に1回しか巣鴨に行きません。空を見て、天気が良いので出かけることにしました。しばらく行くと、呑川のところで足が前に出ません。仕方がなくもどり、石川台の駅に行きたいと思いゆきの橋までいくと、足が前に進みませんので雪谷の駅に行くことにしました。

すこし歩いていると、窓からお婆さんがよびとめたので足をとめました。「どこに行くの?」と聞かれたので、「巣鴨に行く」と言いましたら「連れてって」と言われたので一緒に行きました。

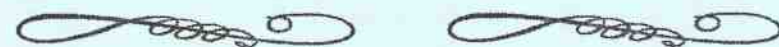
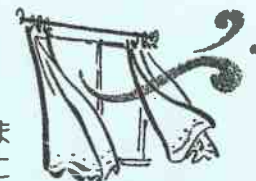
おまいりをすませたら、すぐに帰るといい途中で大福を10個買ってすぐに雪谷にいそいで帰ってきました。すみ屋さんによってお茶を飲んでゆくと言いましたので、よって大福を食べているとお婆さんがトイレにゆきました。すみさんが「どこに行ったの?」と聞かれたので「巣鴨地蔵に行きました」と言いましたら、「お婆さんは心臓に穴があいているので発作を起こしたら大変だ」と言われたのでびっくりしました。

無事に雪谷につくことが出来たのもお地蔵さまが守ってくれたのだと思います。

心臓に穴があいているので、巣鴨に連れて行く人はいないようでした。お婆さんは2年後にこの世を去ってゆかれました。

世の中には理屈で割り切れないことがあるのだと私は思いました。不思議なことですね。

(南雪谷 斉藤 さよ)



## 俳句

癒ゆ近く 晴れ晴れ夫と 青き踏まな  
(東中 中村 好子)

※癒 ゆる  
まな … 福で行こうね

夕顔に 招かれ友と 句を語る  
(希望ヶ丘 横山 茶々)

百幹の 中に逞し 今年竹  
(希望ヶ丘 横山 茶々)



## お詫びと訂正

4月1日付さくら号にて下記の訂正がありました。

「桜の名所案内」29行目にて、

(正) 京急線富岡駅 (誤) 東急線富岡駅

訂正してお詫びいたします。

この情報誌は古紙70%の用紙を使用しています。